

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-81	高等学校	国語	言語文化	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
2 東書	言文 702	精選言語文化		

1.編修の基本方針

① 社会人として求められる言語能力を身につけるとともに、言語文化に対する関心と理解を深める。

- 各単元扉に、その単元での学習目標と、学習する作品や教材に関連した年表、学習する内容に関連した解説を示すとともに、現代文編では、教材ごとに学習する主な目標も示しました。また、「発問」や「学習の手引き」において、学習が効果的に行えるようなポイントを示しました。
- 教科書冒頭には、上代から現代に至る言語文化の継承と発展を示す「言語文化の見取り図」と、各作品に時代を超えたつながりがあることを示す「響きあう言語文化」を用意し、それぞれ教材との関連を持たせました。
- 言語文化に対する関心と理解を深めることができる教材を、時代やジャンルのバランスに配慮して掲載しました。また、古文編と漢文編の間には「文体の変遷」を用意し、上代から近代に至るまでの日本語の文体の変化に触れることができるようにしました。

② 論理的思考力や深く共感したり豊かに想像したりする力、伝え合い、自分の考えを形成する力を高める。

- 展開を捉えて内容を理解するのに適した小説教材や随筆教材を用意しました。また、想像力や表現力を養えるよう、筆者の豊かな感性が表れた詩歌教材や随筆教材を配置しました。
- 古文編では「昔の犬は何と鳴く」を用意し、言葉の変遷について論じた文章を読み解くことを通じて、自らも調べたり考えを持ったりできるようにしました。
- 漢文編では『論語』の注釈を読む」を用意し、日本における『論語』受容の歴史を知るとともに、中国や日本の学者の『論語』解釈に触れることで自らも解釈を試み、自分の意見を持つことができるようにしました。
- コラム形式または手引き形式の「言語活動」を、その活動に関連のある作品・教材等の近くに設け、「書く」「読む」能力を有機的かつ効果的に高めることができるようにしました。また、グループ活動を視野に入れたものを豊富に設定することで、伝え合う力を高められるようにしました。

③ 教材本文とコラム・附録等との関連を図り、多様な学習に対応できるようにする。

- 現代文編では「現代文の窓」(3か所)や「小説の読み方」、古文編では「古文の窓」(8か所)、漢文編では「漢文の窓」(6か所)をそれぞれ設け、単元や教材で学習した内容を深めたり広げたりできるようにしました。
- 「参考」を古文編では4か所、漢文編では3か所設け、学習の補助や発展に利用できるようにしました。
- 古文編では「古文学習のしるべ」(5か所)を設け、古文に関する基本的知識や文法事項を、読むことの学習に即して身につけられるようにしました。
- 附録には、豊富な資料を用意し、多様な学習に対応できるようにしました。現代文関連として「近代文学史キーワード」「読書案内」「日本近現代文学史年表」を、古文関連として各種文法資料や「古文重要語句索引」「日本古典文学史年表」などを、漢文関連として「漢文句法・重要語のまとめ」「中国文学史年表」を用意し、教材本文と有機的に関連させて学習ができるようにしました。また、学習の見通しや振り返りに生かせるように、「この教科書で学ぶこと」を用意しました。巻末の口絵にも、古典の世界についての理解を深める資料を豊富に用意しました。

2.対照表

図書の構成・内容		特に意を用いた点や特色	該当箇所
現代文編	1 随筆	・恋愛をテーマに詠まれた短歌を複数取り上げながら、言葉を通じて思いを届けることについて考える随筆を用意しました。(第5号)	→10～14ページ
	2 小説1	・極限状態にある人間が、正義と悪の間を揺れ動く様子を通じて、正義とは何か、勇気とは何かについて考える小説を用意しました。(第3号)	→22～35ページ
	3 詩歌	・近現代の代表的歌人・俳人の作品など、伝統的な定型詩を理解し、味わうことができる教材を用意しました。(第1号)(第5号) ・「小景異情」「I was born」など、高校生の情操を培うのにふさわしい詩を用意しました。(第1号)	→52～55ページ、 56～59ページ →60～69ページ
	4 小説2	・周囲の人々との交流の様子や主人公の心情が、折々の富士山の景観に対する印象を交えて語られる小説を用意しました。(第5号)	→72～86ページ
	5 作品を読み比べる	・桜に関して書かれた多様な形式の作品を読み比べることで、日本文化における桜のありようについて考える教材を用意しました。(第5号)	→100～104ページ
古文編	1 古文入門	・個人の能力や生き方などについて考えることができる教材を用意しました。(第2号) ・伝統的な言語文化を理解するための基本的な力を培うことができる「古文学習のしるべ」を用意しました。(第5号)	→110～111, 114 ～115, 116～117 ページ →108～109, 112 ～113, 118ページ
	2 随筆	・普遍的真理や処世訓などについて述べた教材を用意しました。(第1号) ・自然や人為に対する感性を育むことができる教材を用意しました。(第1号)	→122～126, 128 ページ →132～135ページ
	3 歌物語	・他者との心の通じ合いや相手を思いやる心を描いた教材を用意しました。(第3号) ・古文が後世の文化にさまざまな影響を与えたことが理解できる教材を用意しました。(第5号)	→138～139, 141 ～149ページ →150～151ページ
	4 日記	・他者との共生や周囲の人への愛情など、人間の営みについて考えることができる教材を用意しました。(第3号)	→154～159ページ
	5 和歌	・和歌に表れた情景や心情から、生命や自然についての考えを深めることができる教材を用意しました。(第4号) ・伝統的な技法を用いて短歌を作ったり、それぞれの時代の恋の歌を読み比べることで伝統的な言語文化に親しんだりできる教材を用意しました。(第5号)	→162～173ページ →177～182ページ
	6 作り物語と軍記物語	・相手を思いやる心や人間の生き方について考えることができる教材を用意しました。(第3号) ・古文が時代を超えて愛されてきたことが理解できる教材を用意しました。(第5号)	→185～191, 194 ～202ページ →204～206ページ
	7 俳諧	・自然の景観と人間の営みについて描いた教材を用意しました。(第4号) ・古文がさまざまな国や地域で享受されてきたことが理解できる教材を用意しました。(第5号)	→208～214ページ →216～219ページ
	古文の広がり	・言葉の変遷について論じた教材を用意しました。(第5号)	→220～224ページ
	文体の変遷	・文体の変遷について考えることができる教材を用意しました。(第5号)	→225～228ページ

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所	
漢文編	1 漢文入門	<ul style="list-style-type: none"> ・熟語や人口に膾炙した格言などを通じて、訓読のきまりや日本における漢文の受容について知ることのできる「訓読の基本」を用意しました。(第5号) ・漢字の読みと意味の関係を理解することで、漢字に親しみ語彙力を高めることのできる「言語活動」を用意しました。(第5号) 	→230～238ページ →239ページ
	2 寓話	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文についての理解を深める「漢文の窓」を用意しました。(第5号) 	→250ページ
	3 漢詩	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の繊細さや季節の情景に触れた漢詩を用意しました。(第4号) ・漢詩が日本の文芸に与えた影響を示す訳詩や、「参考」を用意しました。(第5号) 	→252～253ページ →252, 253, 258ページ
	4 史話	<ul style="list-style-type: none"> ・友情や信頼の大切さについて考える教材を用意しました。(第3号) 	→266～267ページ
	5 思想	<ul style="list-style-type: none"> ・学問の重要性、人を思いやる心、社会に対する態度について考えることのできる教材を用意しました。(第1号)(第2号)(第3号) ・日本における漢文受容の歴史を知るとともに、根拠に基づいて自らの考えを形成する態度を養う教材を用意しました。(第1号)(第5号) 	→274～277ページ →278～280ページ

3.上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

○中学校までの学習内容とのつながりを図りやすくするため、教材の採録箇所を工夫しました。(学校教育法第51条1号)